

## 2 研究主題

自ら課題をもち、主体的に学び続ける子どもの育成  
～少人数学習における人との関わりを図る授業の工夫を通して～

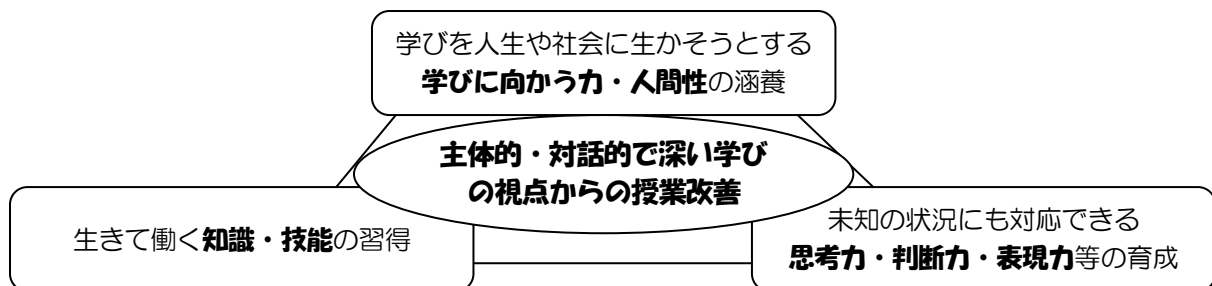
## 3 研究主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。〔教育基本法第三条（生涯学習の理念）〕

○新しい時代に必要となる資質・能力の育成

〔新学習指導要領（平成29年3月改訂）…「生きる力」の理念の継承〕



少子高齢化に伴い、本町は、複式学級を有している小学校が6校（平成29年度）ある。  
本校は、5・6年生、3・4年生、1年生の3学級である。



- 複式や少人数であることをプラスに捉え、学習意欲の向上や個に応じたきめ細やかな指導を重視した指導方法の改善に取り組む必要がある。
- 教師が直接指導できない時間に、子どもが主体的に学びを深められるようにすることが重要である。

### (2) 本校の教育目標から

学校教育目標  
「考えて 働いて 創り出す」

めざす子ども像  
「心豊かな子」「たくましい子」「賢い子」

学校生活の核は授業であり、

「よい授業をすると、よい子が育ち、よい学級ができ、よい学校になる」

- ① 子どもが、学び方を身に付け、自主的に学びに取り組む授業
- ② 子どもが、人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを自分の言葉で伝える授業
- ③ 子どもが、物事を主体的に判断し、行動する授業



算数科授業を中心に主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を図り、他教科・領域で生かしていくことは、本校教育目標を具現化するために有効である。

### (3) 児童の実態から

〔NRT 学力検査の結果〕

- ・ 国語 算数

〔授業における実態〕

- ・ 「学習ガイドマニュアル」をもとに、児童一人一人がガイド学習の進め方や学習の流れを理解して、主体的に学習に取り組むようになってきた。
- ・ 基礎・基本の定着が不十分である児童もいるため、お互いの考えを出し合い、学び合うというところまでは高まっていない。

〔授業の中でめざす子ども像に関する子どもの自己評価〕※ 算数の授業において

	H28年度		H29年度	昨年度との差
	1学期末	3学期末	1学期末	
① 問題を読んで意味が分かる	7.2	8.4	8.4	0
② めあてを考える	5.4	8.1	7.8	-0.3
③ 見通しを考える	8	8.8	7.5	-1.3
④ 集中して問題に取り組む	7.6	8.4	8.8	0.4
⑤ 解き方を文章や図で書き表す	7.1	8.3	8.6	0.3
⑥ 考えを説明する	6.6	8.5	8.1	-0.4
⑦ 自分の考えと比べながら聞く	6.8	8.6	7.9	-0.7
⑧ 自分の言葉でまとめる	5.2	8.1	8.2	0.1
⑨ 質問したり教え合ったりする	7.1	9.2	8.2	-1
⑩ ノートの書き方	7.9	8.9	8.4	-0.5
合計	6.89	8.53	8.19	-0.34

- ・ 昨年度1学期末との比較から、昨年度の校内研究において主体的に学習を進めるガイド学習のあり方や充実した自学自習を行うための間接指導のあり方について研究を進めてきた成果がうかがえる。
- ・ 昨年度3学期末との比較から、「めあて」と「まとめ」が子どもに概ね届く授業を展開しているといえるが、③⑦⑨（対話的な言語活動）においては落ち込んでいる。

〔学校生活全般における実態〕

- ・ 自分たちで知恵を出し合い、主体的・自発的に解決しようとする意欲や態度に十分結びついているとはいえない。
- ・ 教育活動全体において、自己表現力の向上（コミュニケーション能力）は、依然として大きな課題である。

「まわりと関わりながら知恵を出し合い」「主体的に行動し」「新たな方法やよりよい方法を創り出す」子どもの姿をめざして授業改善を図ることは、学校教育目標を具現化するために有効である。

### (4) 研究主題について

『自ら課題をもち主体的に学び続ける』とは、

- ① 学習の仕方を理解し見通しをもって授業に臨むこと
- ② 既習内容を用いて課題を解決する力が身に付いていること
- ② 苦手な問題であっても解決の糸口を探り、自分なりの方法で課題に粘り強く取り組むことととらえ、日々の授業改善に取り組む。

今年度は、算数科の授業を中心に、まわりと関わりながら主体的・対話的で深い学びを実現するために、各過程における言語活動を重視する。

## 4 研究仮説

---

算数科の授業における各過程において言語活動を充実させれば、子どもはまわりと関わりながら筋道を立てて考えたり、説明したりし、学習の理解を深めることができるであろう。

具体的には、算数科の授業や授業以外の教育活動を通して、以下の6つの視点で研究を進める。

- (1) ガイド学習の充実（だれもがガイド役をできる）
- (2) 先行学習（予習）の充実（先行学習をどのようにとらえるか）
- (3) 一人調べの充実（間接指導に入る前の見通しのもたせ方）
- (4) 話し合い活動・対話の充実〔まわり（友達、指導者、教材、教具）との関わり方〕
- (5) ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境の整備
- (6) 授業以外の教育活動との関連

## 5 研究の方法

---

- (1) 全学級の研究授業の実施
  - 6つの視点から、各学級における指導の重点を絞り、研究授業を行う。
  - 授業研究を通して成果と課題を明確にし、改善策を検討し、共通実践する。
- (2) 各種研修会や研究発表会に積極的に参加
  - 「本校で活用できそうなこと」を吸収し、伝達する。
  - 本校の実態に即した教材等を検討し、共通理解を図った上で日々の授業で活用する。
- (3) 「表現集会」の質を高める
  - 学年を問わず発言できるテーマを設定し、安心して自由に自分の考えを述べることができる場を設定する。